2016年伊勢志摩国立公園指定70周年記念紙

ぱるく伊勢志摩

夏の号 2　第２号

企画・編集・発行：(有)伊勢文化舎
協力：伊勢志摩国立公園協会
公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構
発行部数：8万部
〒516-0008 三重県伊勢市船江2丁目22-25
TEL：0596-23-5166　FAX：0596-23-5241
Mail：otayori@isebito.com
URL：http://www.isebito.com/

祝
伊勢志摩サミット
2016年の
主要国首脳会議（サミット）
開催地に
志摩市の賢島
が決定！

夏、島旅に出かけよう。

鳥羽湾に浮かぶ、神島、菅島、答志島、坂手島。
この島々にはゆったりとした島時間が流れています。
碧い海と豊かな海の幸――。
定期船に乗れば、非日常の世界がそこに待っています。
さあ、島旅へ。

【特集】
2→5……島時間を旅する／島遺産をめぐる旅モデルプラン

【シリーズ】
6……伊勢志摩の鳥人 空からパチリ！「御座岬から麦埼灯台を経てスペイン村へ（志摩市）」
7……インタビュー 伊勢志摩と私「谷村志穂さん 志摩で紡いだ『いそぶえ』のとき」
8・9……伊勢志摩エコツーリズム ガイドさんのおすすめ体験「シーカヤックで里海の魅力を満喫（志摩市）」
10・11……お伊勢さんを訪ねる 新別宮へお参りに「伊雑宮へ（志摩市）」
12……先駆者たち「真珠王 御木本幸吉翁」
13……乾淳子の手作り味に出会う里「大王崎の茶屋に伝わる志摩風トコロテン（志摩市）」
14・15……ぐるり伊勢志摩 見よう・歩こう・楽しもう（国立公園エリアマップ）
16……お知らせ／70周年記念事務局だより

離島をめぐる鳥羽市営定期船。島民には欠かせない足でもある。（菅島港）　撮影＝鈴木和宏

デザイン・レイアウト＝中川朋樹

特集

定期船で行く鳥羽の島遺産めぐり

島時間を旅する

ふつうの旅に飽きたら、思い切って
〝何もない〟ところへ出かけてみませんか？
鳥羽市の沖合に浮かぶ4つの島、
神島（かみしま）、菅島（すがしま）、答志島（とうしじま）、坂手島（さかてじま）に
流行りの観光施設やコンビニはありません。
でも、そこには本土とはまるで違う
穏やかで、ゆったりとした時間が流れています。
夏のある日、自然に寄り添う離島の暮らしを訪ねました。

文＝高澤あゆみ
撮影＝溝口照正・鈴木和宏
レイアウト＝中川朋樹

昭和54年に水道が通るまで、神島では表流水を利用した共同洗濯場で洗濯をしていた。今も利用する人がおり、ちょっとした社交場になっている。

アラメやテングサなど季節ごとにさまざまな海藻が干してある。

島の朝は太陽とともに

物干しハンガーには魚がぶら下がり、港周辺の路上はまるで海藻の絨毯（じゅうたん）――鳥羽湾に浮かぶ4つの島、神島、菅島、答志島、坂手島。いちばん近い坂手島なら鳥羽マリンターミナルから船でわずか10分、最遠の神島でも約40分の距離ながら、本土では見かけない光景が広がっています。朝にしても、答志島では午前6時にサイレンの音が大きく響き渡ります。とっくに起き出して一輪車でゴミ出しをする人、海上で日の出を迎える漁師など、太陽とともに始まる島人の一日。晴れれば「今日はええ日やのぉ↗」「ええ日やなぁ↘」（答志島の方言で目上の人と話す時は語尾を「のぉ」と上げ、目下や同い年の人に対しては「なぁ」と下げる）、「じょうびやな」（神島の方言で「いい天気やな」の意）などと声をかけ、雨が降れば「えらい日や」とあきらめ顔で空を見る……漁師町だけに、どの島でも天候がもっぱらの話題です。こうした素朴で健康的な暮らしに文豪も感じるものがあったのでしょう。小説『潮騒』を執筆するにあたり、物語の舞台となる〝文明から隔絶された〟小島を探していた三島由紀夫は、昭和28年浅春、当時の水産庁からの推薦状を持って神島を訪れました。その時の印象を川端康成に宛てた3月10日付の手紙に書き記しています。

「映画館もパチンコ屋も、呑屋も、喫茶店も、すべて『よごれた』ものは何もありません。この僕まで忽ち浄化されて、毎朝六時半に起きてゐる始末です。ここには本当の人間の生活がありさうです」。手紙では、翌日訪ねる予定のホテルですましてフォークとナイフでごはんを食べるだろうと想像すると、自分で自分にゲッソリする、とも告白しています。

海へ出ていない時は網繕いをしたり漁具を整えたりと、入念に準備をする漁師さん。

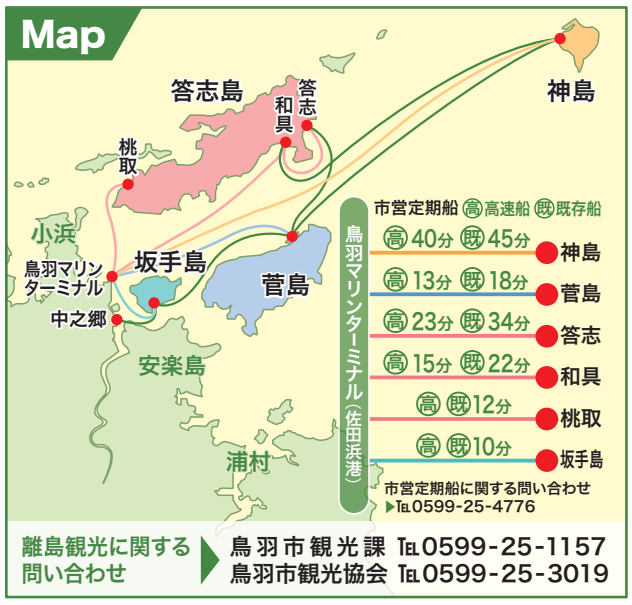
神島で民宿「山海荘」を営む山本欽久（よしひさ）さん（39）は「今もパチンコ屋はなく、60年前とそう変わっていないのでは」と笑いつつ、言います。「台風になったら船は欠航するし、海が荒れたら漁も休みになる。人間ではなく自然が中心。それが、島の暮らしなんですよ」。

70歳、80歳の〝あまちゃん〟が活躍

獲れたての魚介が味わえるのは、島ならでは。流通システムが発達し比較的新鮮な食材が手に入るようになっても、朝、水揚げされたばかりの鮮度に勝るものはありません。加えて島の空気の中で味わうからこそ、一層おいしく感じられるというものです。

6月下旬から8月にかけて最盛期を迎えるのはタコ、タイ、アナゴなど。また、海女漁が本格的に始まるため、ウニ、サザエ、イタボ（岩ガキ）、アワビといった磯ものが出回ります。

「桃取のアナゴは少し赤いんさ」と三浦さん。多い時で200匹以上仕入れる日もあるという。



明治13年（1880）、明治天皇の御聖断を仰ぎ、
伊勢神宮の遥拝所として建てられたのが
「東京皇大神宮遥拝殿」、いまの東京大神宮です。
皇室の御祖神である天照大御神をまつり、
国民の総氏神と仰がれる
伊勢神宮（内宮）の御神徳を
皇都東京にあまねく宣布し、
都民の心のよりどころになるようにとの
願いから創建され130年余の歳月が流れました。
「東京のお伊勢さま」として親しまれている東京大神宮は、
いまも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。

東京のお伊勢さま
東京大神宮
〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-1
電話（03）3262-3566 FAX（03）3261-4147
http://www.tokyodaijingu.or.jp/
JR総武線、地下鉄東西線・有楽町線・南北線・大江戸線
「飯田橋駅」徒歩5分

菅島灯台の向こうに海を望む

答志島（答志・和具）の夏のご馳走である「海胆（ガゼ）の詰め焼き」。ガゼとはウニのことを指す。

1日にン十万稼ぐ強者の海女さんもいるそうだ。

夏場は海女さんのかき入れ時。頭の☆（セーマン）、▦（ドーマン）の印は安全祈願のおまじないだ。

12時30分から始まる答志港の市場。一般観光客も見学できる。

今回は答志島の割烹宿「桃取 松家」におじゃましました。毎日、島の3地区（和具・桃取・答志）の市場を巡り、その朝水揚げされた中でもとびきりの食材を買い付け宿泊客をもてなすというあるじの三浦政吉さん（54）。本日いただくのは、名物のアナゴ丼です。「同じ島でも、答志と桃取のアナゴでは味が違う。桃取のは脂ののりが良くて、肉質もええんさ」と少し得意げに語る三浦さん。聞けば、島の北西部に位置する桃取地区は伊勢湾に面しているため、伊勢若松（鈴鹿市）と同等のアナゴが獲れるとか。百聞は一食に如かず（？）とばかり、ふっくら肉厚の身にかぶりつけば、香ばしさとともに上品なうま味が口の中に広がり、何ともいえないおいしさ。甘辛いタレと相まって、何杯でもおかわりしたくなる逸品です。アナゴが獲れない日はタコや地魚など、その日の仕入れ次第で内容が替わる〝一期一会〟なところもまた、島料理の醍醐味といえるでしょう。

ウナギに比べると若干淡泊だが、うま味のある上品な味わいが楽しめる。

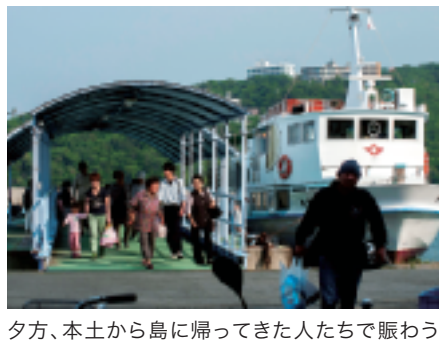
※単品での注文は不可。お昼のみの食事プランについては「桃取 松家」℡0599-37-3050へ 要問合せ

お腹が満たされたところで、正午過ぎから答志港で市場が開かれると聞き、行ってみました。水色の大きな水槽の中には午前に水揚げされたばかりの魚がいっぱい。次々と競りにかけられては再び船で愛知や東京方面へと運ばれていきます。海女さんたちが獲ってきたアワビやサザエなどはきっちり目方を量った上で全国に出荷。島では70歳、80歳を過ぎた海女さんたちが現役で活躍しています。

無名の絶景に見とれながら

夕方、最終便の時刻になると、どの港も本土から帰ってきた人、島を離れる人々であふれかえります。そして、海を見やれば西の空をオレンジ色に染め、沈んでいく太陽……先述の三島由紀夫は、島の景色にも触れています。

「その風景が無名であるところが、何ともいへず美しいのである。もしこの程度の景色が都会の近くにあったら、たちまち名勝扱ひをされて、めちゃくちゃにされることは疑ひがない。神島の風景は、一本一本の松、人のゐない浜、断崖、小さな入江、そのどれにも、無名のつつましい美しさがこもってゐて、誰か別の人間の余計な解釈が垢をつけてゐないのだった」。


夕方、本土から島に帰ってきた人たちで賑わう坂手港の桟橋。

島々で目にした光景は初めてのはずなのに、なぜか懐かしく、忘れがたい印象を残します。三島の言うように、無名だからこそ自ずと見る人の心象が投影され、特別な景色に映るのでしょうか。

人は、時間に追われる日々を過ごしているうちに、いつしか感覚がずれてしまうのかもしれません。自然に寄り添ったゆったりとしたリズムが流れる離島での一日は、きつく巻きすぎたゼンマイを緩めてくれた気がしました。

答志島の西に位置する桃取からの眺め。6月の夕景はとくに綺麗と島民は話す。

4島の紹介

神島
小説『潮騒』の舞台

鳥羽佐田浜港から北東約14㌔に位置する周囲4㌔、人口400人ほどの小さな島。船から眺めると三角に見える島の形が特徴。主な産業は漁業で、特産物であるタコやタイ、伊勢エビなどは全国的に評価が高い。三島由紀夫の小説『潮騒』の舞台としても知られ、小説に登場する神島灯台や監的哨（かんてきしょう）跡のほか、石灰岩のカルスト地形、アサギマダラ（蝶）、サシバ（鷹）の渡りなど豊かな自然が楽しめる。

菅島
しろんご祭で有名な風の島

鳥羽佐田浜港から東約3㌔に位置する、東西に長く伸びる形をした菅島。伊勢志摩を代表する海女の祭典・しろんご祭が7月に行われるほか、現存するレンガ造りの灯台としては日本最古という菅島灯台が建つなど見どころが多い。別名〈風の島〉とも呼ばれるように、秋から冬にかけて強い北西風が吹くため、魚介や海藻を干す「干物文化」が根付いている。近年、伊勢エビの干物を売り出し、注目を集めている。

答志島
漁村文化と歴史ロマンが息づく島

鳥羽佐田浜港から北東約2.5㌔に浮かぶ、人口約2300名を数える伊勢湾最大の島。北東側に答志、南東側に和具、北西側に桃取と3つの集落に分かれており、それぞれに漁港や市場がある。漁業が主な産業だが最近は観光業も盛んで、磯場や手つかずの自然を生かした旅が人気だ。戦国時代に活躍した九鬼水軍の将・九鬼嘉隆（くきよしたか）にまつわる史跡も残り、海の文化だけでなく歴史ロマンも楽しめる。

坂手島
皇女・倭姫命が愛でた島

鳥羽佐田浜港から600㍍の沖合に浮かぶ、東西約2㌔、南北約1㌔の島。かつては神宮の御厨（みくりや）（神饌（しんせん）を調進する場所）で、皇女・倭姫命（やまとひめのみこと）の伝説を記した『倭姫命世記』には「佐加太岐嶋（さかたきしま）」の名で登場する。初夏には美しいカキツバタが咲き誇るが、もとは倭姫命が都から持参したアヤメが始まりとする伝説が伝わっている。昔は漁業が盛んだったが、今は本土に勤める人がほとんどだ。

伊勢名物 赤福
本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代)　ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ 0120-081381
http://www.akafuku.co.jp/

キャラクター 福丸くん
facebook 頭之体操

頭の神様 おかしらさん
日本で唯一「頭之宮」と名付く神社

頭之守護神 知恵の大神 頭之宮四方神社（こうべのみやよもうじんじゃ）
鎮座地 三重県度会郡大紀町大内山
0598-72-2316
http://www.koubenomiya.or.jp/
●「松阪」よりJR線又は三重交通（南紀特急）「大内山駅」下車徒歩10分
●紀勢自動車道 紀勢大内山I.C.より尾鷲方面へ車で5分
●「松阪」「伊勢」からレンタカーが便利です。いずれも、およそ50分。
●伊勢志摩国立公園の南の玄関口・南伊勢町まで15分（国道260号全線開通）

特集

島遺産をめぐる旅 モデルプラン

海と密接に関わりながら独自の島文化を育んできた
鳥羽４島の魅力を大切に守り、後世に伝えていこうと、
平成24年に鳥羽市が島民とともに選定した「鳥羽の島遺産100選」。
その中から選りすぐりのスポットを巡るモデルコースをご紹介します。

（●番号はモデルコース／●印はその他島遺産）

島旅 インフォメーション

島旅を満喫するなら、島の魅力を知り尽くした現地ガイドにおまかせするのもおススメです。

神島（かみしま）

名作『潮騒』の舞台を訪ね、絶景を満喫

❶ 積み上げられたタコ壷
❷ 時計台跡
❸ 洗濯場
❹ 寺田さん宅（三島由紀夫が滞在した家）
❺ 八代神社
❻ 神島灯台
❼ 神島から望む伊良湖水道
❽ 監的哨跡
❾ カルスト地形

コース内容 約2時間+α

発 神島漁港
❶ 積み上げられたタコ壷
❷ 時計台跡
❸ 洗濯場
❹ 寺田さん宅（三島由紀夫が滞在した家）
❺ 八代神社
❻ 神島灯台
❼ 神島から望む伊良湖水道
❽ 監的哨跡
❾ カルスト地形
着 神島漁港

菅島（すがしま）

美しい海景に心和む、しろんご海道を歩く

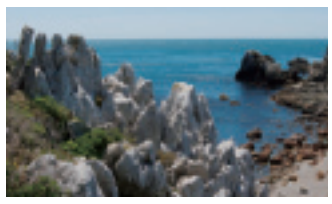
コース内容 約2時間

発 菅島漁港
❶ しろんご浜
❷ 白髭神社
❸ 菅島灯台
❹ 監的哨跡（菅島）
❺ 庚申さん
❻ 菅島神社（鬼子母神）
❼ 菅島小学校
着 菅島漁港

神島漁港を起点に島を一周する近畿自然歩道に沿って島遺産を巡る4キロほどのコース。まず漁港から集落に入り、細い路地や階段が入り組む漁村ならではの雰囲気を楽しみます。続く自然歩道は上り坂になるものの、とくに健脚でなくとも歩ける勾配。高台にある八代（やつしろ）神社や神島灯台、監的哨跡はいずれも『潮騒』に登場するスポットで、雄大な海景を満喫できます。自然を楽しむならアサギマダラ（蝶）やサシバ（鷹）が見られる9月下旬～10月頃もおすすめ。

明治43年（1910年）点灯の神島灯台。

監的哨跡から渥美半島を望む。


石灰岩の切り立ったカルスト地形。

別名「しろんご海道」と呼ばれる、菅島の東側を縁どる近畿自然歩道を歩くコース。菅島の漁港を起点に美しい海景を眺めながら、しろんご祭が開かれるしろんご浜や島の守護神を祀る白髭（しらひげ）神社など、菅島の要所を巡ります。四季を通して気持ちのよいコースですが、せっかく訪れるならしろんご祭を見に行かれてはいかがでしょう。白い磯着姿の海女さんたちが海に潜る様子を眼前で見物できるほか、しろんご浜や港では獲れたての磯ものや海鮮弁当が格安で販売されます。また、祭の当日は「日本の灯台50選」に選ばれ、現存するレンガ造りの灯台としては日本最古である菅島灯台の内部が無料で一般公開されます。

レンガ造りでは日本最古の菅島灯台。

菅島の夏はしろんご祭で始まる。

タコ飯

神島では年中獲れるタコですが、最盛期は初夏から夏にかけてと、秋から冬にかけて。伊勢エビを食べて育つタコは風味があり、噛むほどに旨みがしみ出てきます。船着場の「浜辺の店 潮波（さっぱ）」TEL0599-38-2900や「山海荘」TEL0599-38-2032では通年メニューですが、念のため事前に要予約、お問合せください。

イタボ（岩ガキ）

夏ガキとも呼ばれるイタボ（岩ガキ）。冬の真ガキに比べると全体に大ぶりで、濃厚かつクリーミーな味わいが特徴です。おいしさを丸ごと味わうならやはり〝生〟で。ぷっくりとした身を吸い込めば、瞬く間に磯の風味が広がります。仕入れ状況は日によるので宿泊宿に事前にお問合せください。

7月11日

しろんご祭

今年は7月11日に開催されるしろんご祭。大漁と海上安全を祈願する祭で、島の海女たちがつがいアワビの初獲りを競います。この祭りが行われるしろんご浜で漁が解禁されるのはこの日のみ。祭りの後、浜では海女たちが獲ったサザエやアワビが浜値で売られ、多くの見物客で賑わいます。

天王祭

7月18日

菅島の三大例祭のひとつ。天王祭は古くから鳥羽志摩の各地で斎行されている牛頭天王（ごずてんのう）をお祭りする祭典です。この日は出店が軒を連ね、菅島神社では奉納演芸が行われます。この日ばかりは島人は歌に踊りに明け暮れます。

じんじん船

8月31日

木と竹とワラで作った船を海に流し、ご先祖様の霊を送るとともに悪霊も退散させる精霊送りの行事。当日は地区の古老が冷泉寺に集まり、人形を乗せた2メートルほどのワラ船を作ります。そして各家々を巡った後、日没前に沖に流し、ご先祖様の霊をお見送りします。

鳥羽の旅物語

鳥羽温泉郷は、心豊かな旅物語で旅人をお迎えします。

壱の旅　食べて泊まって、鳥羽の魅力をたっぷり楽しんでください
弐の旅　幸せを呼ぶ、日本の祝い魚を堪能していただけます
参の旅　くつろぎの朝は、禊湯（温泉）で無垢なる心と体になり、お伊勢さんへお参り
与の旅　伊勢・鳥羽・志摩を巡り、神秘さに出会ってください
五の旅　憧れの聖地で「愛と美と絆」を確かめてください

鳥羽温泉郷 TOBA ONSEN-GO
鳥羽市温泉振興会　鳥羽温泉郷 検索
TEL：0599-25-3019 FAX：0599-25-6358
http://www.toba-onsen.com

私の旅行スタイル、ふるさと納税。
鳥羽市ふるさと納税　検索
鳥羽の旅の情報は http://www.toba.gr.jp
鳥羽市観光協会　〒517-0022 鳥羽市大明東町1-7 TEL 0599-25-3019 FAX 0599-25-6358

〝島のかあちゃん〟が案内人！ 島の旅社

島の旅社では〝ありのままの島の生活を感じてほしい〟と島民みずからガイドとなり、離島の自然や歴史、食、暮らしを案内しています。6〜8月の大潮の時を中心に開館する「浮島水族館」や海女小屋でのバーベキューが人気です。

TEL0599-37-3339（平日10時〜16時）

多彩なエコツーリズムを展開 海島遊民（かいとうゆうみん）くらぶ

鳥羽の海をとことん楽しんでほしいと、漁師さんとの釣りツアーやカヤックツアー、砂浜ランチツアー、海女の国スピリチュアルツアーなど、自然を舞台にした多彩なネイチャーツアー&エコツアーを展開しています。

TEL0599-28-0001（9時〜17時）

離島を巡るなら 周遊券が便利でお得！

鳥羽の4島を巡るなら、4日間乗り放題の周遊券がお得です（注:鳥羽港に下船した場合は再乗船不可）。

内回り（鳥羽⇔菅島⇔答志⇔和具⇔鳥羽／大人1080円・子ども540円）、

外回り（鳥羽⇔和具⇔神島⇔菅島⇔鳥羽／大人1460円・子ども730円）の2種類。

鳥羽市定期船課　TEL0599-25-4776

島巡りガイドブックの決定版！「鳥羽の島遺産100選」

108に及ぶ鳥羽の島遺産を完全網羅。およそ1年の歳月をかけて4島を丁寧に取材・撮影した充実のガイド本です。定価1000円

鳥羽市観光課

TEL0599-25-1157

答志島（とうしじま）

島を縦断する山道を行く健脚コース

コース内容　約3時間+α

- 発 和具漁港
- ① 和具サンシャインビーチ
- ② 答志島スカイライン
- ③ 桃寿橋
- ④ 八幡神社
- ⑤ 桃源寺
- ⑥ 桃取のまちなみ
- ⑦ サンビーチ桃取
- 着 桃取漁港

答志、和具、桃取の3集落を結ぶ答志島スカイラインは全長6キロに及ぶ島の大動脈。本コースは答志島スカイラインのうち、和具から桃取へつながる山道を中心に歩く健脚向きのルートです。山道を行くおよそ90分の行程ではところどころで大海原が見渡せ、桃取に出ると牛島や浮島、弁天島など大小さまざまな島が浮かぶ穏やかな景色が広がります。弓引き神事が行われる八幡神社や古くより桃取の人々の信仰を集めてきた桃源寺など、桃取地区の神事、伝統行事にまつわる場所を巡った後は、終点のサンビーチ桃取へ。ここからは島遺産の一つである「桃取から眺める夕日」が楽しめます。

答志島スカイラインからの眺め。

天望山（てんぼうさん）レイフィールド

和具地区と桃取地区を結ぶ県道の中間地点に位置する標高約60メートルの天望山。白蛇の神様が眠るといわれるその山頂に今春、展望広場が完成。和具港から登山道入口までは徒歩30分、山頂までは10分ほどと、子どもでも楽しめる手頃なコース。展望台からは神島や愛知県の伊良湖岬などが見渡せます。

浮島（うきしま）自然水族館

6月20日 7月4・5・18・31日 8月1・3・29・30日

答志島の沖合に浮かぶ無人島・浮島で約90分の磯遊びが楽しめる「浮島自然水族館」。大潮の干潮時に姿を現す天然の磯場で、カニやウニ、魚などを観察できます。県外から参加する親子も多数。各日先着30名。申込みは島の旅社まで。（上記参照）

7月24日

鳥羽みなとまつりの花火鑑賞クルージング

答志島旅館組合（TEL0599-37-2822）が加盟する旅館の宿泊客を対象に行っている、大人気の花火鑑賞クルージング。約90分間、鳥羽みなとまつりで打ち上げられる花火を船上から臨場感たっぷりに鑑賞できます。和具港発。大人1300円、小人600円、未就学児300円。宿泊の際、要申込み。

7月26日 8月2日

タコと魚のつかみ取り

答志島旅館組合では加盟する旅館の宿泊客を対象に、7月26日・8月2日の2日間、和具サンシャインビーチプールで「タコと魚のつかみ取り」を行います。その日水揚げされた魚とタコをプールに放ち、参加者に好きなだけ取って持ち帰ってもらうお得イベント。参加費は1チケット300円。

坂手島（さかてじま）

乱歩ゆかりの島で自然に親しむ

コース内容　約1時間半

- 発 坂手漁港
- ① タブノキ
- ② 村万商店
- ③ 林昌寺
- ④ 若宮神社
- ⑤ アヤメ池
- ⑥ 旧坂手小学校
- ⑦ 姫の浜
- ⑧ 坂手海水浴場
- 着 坂手漁港

鳥羽本土からわずか600メートルの近場に位置する坂手島。昨今、漁師町の風情は薄れつつありますが、鳥羽マリンターミナルから船で10分と気軽に島旅が楽しめるのが魅力です。コースでは江戸川乱歩の妻・お隆（りゅう）さんの生家（かつての村万（むらまん）商店）や祭りの中心地となる「浜の小屋」と呼ばれる広場を経て、天王祭が行われる若宮神社やアヤメ池へ。アヤメ池には5月から6月にかけて鮮やかな紫色のカキツバタが咲き誇り、ハイキング客も増えるそうです。また、島の東端に広がる坂手海水浴場はシャワーなどの設備がない分混雑することなく、のんびり泳げる海水浴スポットとなっています。

隠れた海水浴場スポットの坂手海水浴場。

7月11日

棒ねり（天王祭）

若宮神社の天王祭の日に行われる、340年以上の歴史を持つ神事。その昔、悪疫を鎮めるため尾張津島神社の分霊・牛頭天王をお迎えした故事に因むとされています。行列では紋付袴・帯刀姿の宿元2人が五色の紙をつけた棒を回しながら練り歩きます。鳥羽市の無形民俗文化財。

8月13日〜15日

盆踊り

8月13日〜15日のお盆では、島の中心場所である「浜の小屋」と呼ばれる広場に櫓が組まれ、盆踊りが3夜にわたって繰り広げられます。なかでも、14日の晩に行われる仮装懸賞踊りは奇抜な衣装を身にまとった島民による踊りの輪が二重、三重にも広がり、熱気に包まれます。

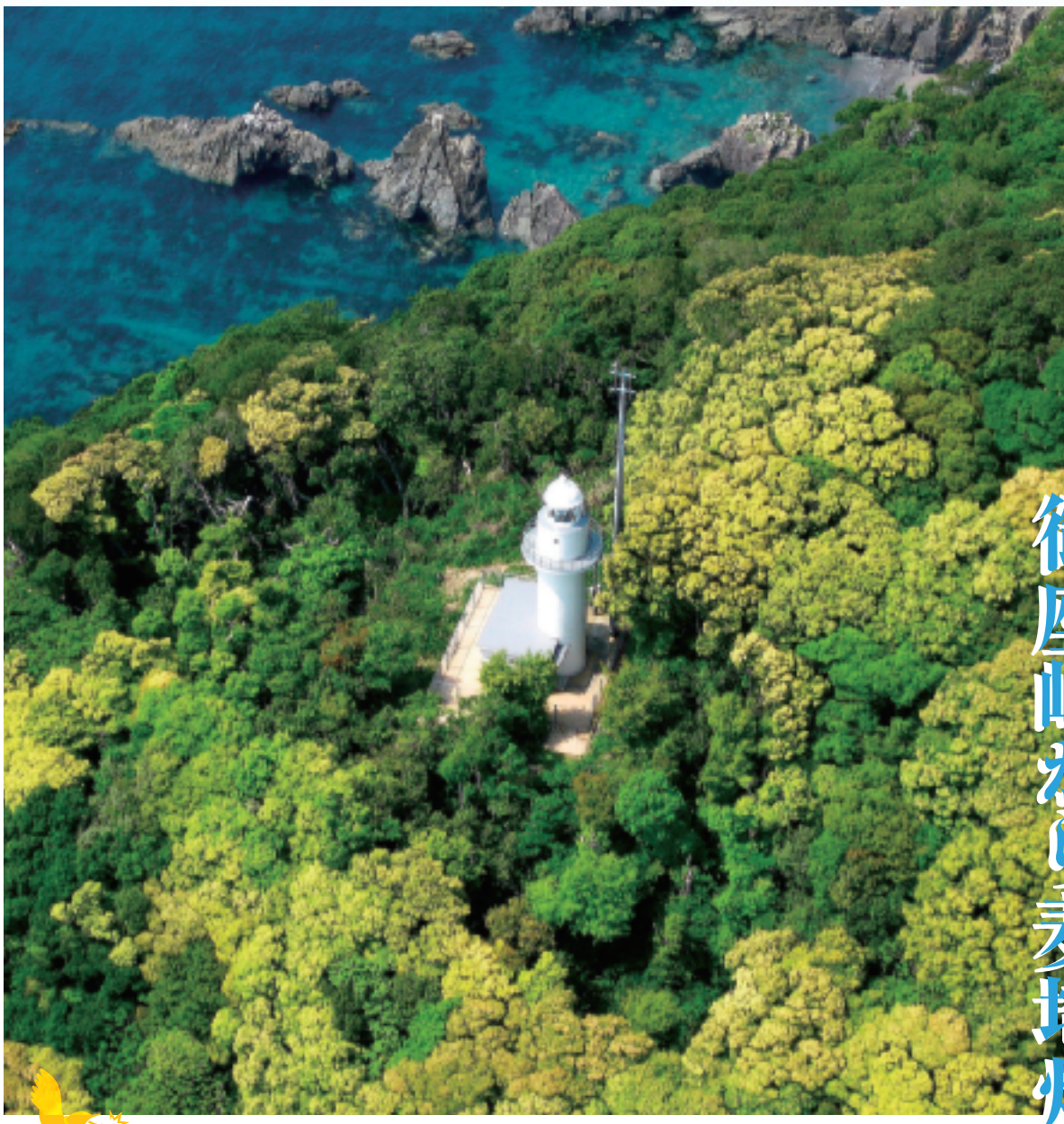
モーターパラグライダーで空中散歩を楽しみながら撮影を続けていた松本高正さん（志摩市磯部町）の「空からパチリ!」。今回は志摩半島先端からのフライトです。

伊勢志摩の島人 空からパチリ!

PROFILE

まつもと・たかまさ
1936（昭和11）年生まれ。64歳でパラグライダーに挑戦。翌年から、エンジンユニットをハーネスに接続してその推進力で飛ぶモーターパラグライダーに転向した。日本パラモーター協会会員。空を飛ぶのは年に70回を超え、得意技は宙返りとスパイラル（錐もみ）での急降下。ここ数年、伊勢志摩国立公園のカレンダーに空撮写真が使われ、動画投稿サイトYouTubeにアップされている動画にはアクセスが相次いでいる。享年80歳。

御座岬から麦埼灯台を経てスペイン村へ（志摩市）


シイノキの花が咲き誇る御座岬。黄緑色の花が、新緑と見まがうばかりに鮮やかに映える。

白くて優雅なパールブリッジ。眼下には真珠養殖いかだが。

海女の磯笛が聞ける場所とされる麦埼灯台。干潮のため岩場が露出している。

海の青いグラデーションが美しい次郎六郎海水浴場。

伊勢志摩の風景に異国のスパイスをきかせる志摩スペイン村。

目にさやか　緑萌え、花咲く岬

萌える緑が目にまばゆいばかりです。ここは、志摩市の志摩半島先端の御座（ござ）岬。小さな灯台は御座岬灯台です。でも、この「新緑」、葉にしてはちょっとおかしいと思いませんか？

上空からなのではっきりは見えませんが、黄緑色の部分は葉ではなく、花なんです。常緑樹のシイノキの花。5月下旬から6月にかけて、木のてっぺん付近を花が覆います。シイノキの花が灯台を取り囲んで咲き誇る光景は、空からならではの絶景です。

東へ飛ぶと、白い橋が見えてきす。志摩大橋、通称パールブリッジです。その名のとおり真珠の海に架かる真珠色の橋。優雅です。

さらに東へ。見えてきたのは麦埼（むぎさき）灯台。環境省が指定した「残したい日本の音風景100選」に選ばれている「伊勢志摩の海女の磯笛」が聞ける所として知られます。でも残念ながら、この時は干潮で岩がむき出し。海女さんの姿はありません。

進路を北西へ。小さな半島が見えてきました。半島の両側に美しい浜辺がある次郎六郎海水浴場です。一方が海水浴場、一方が生物などを観察できる海浜公園になっています。英虞（あご）湾内なので波は穏やかで、海水浴には絶好の穴場です。

進路を北へ。異国の風景が見えてきました。志摩スペイン村です。伊勢志摩きってのテーマパークは、伊勢志摩の風景にもすっかり溶け込んで、格好のスパイスをきかせていました。

（撮影・松本高正さん　文・安藤正雄）

松本高正さんは5月20日、志摩市沖をパラグライダーで飛行中、不慮の事故により、ご逝去されました。このシリーズの写真は、松本さんのご厚意で掲載していました。素晴らしい写真を提供していただいたことに感謝するとともに、ご冥福をお祈りします。

▶ インタビュー　伊勢志摩と私

志摩で紡いだ『いそぶえ』のとき

作家 谷村志穂さん 東京都

ノンフィクション『結婚しないかもしれない症候群』で話題を呼び、
『海猫』で男女の愛憎を描いた谷村志穂さんが、
あらたな舞台に選んだのは志摩の海でした。海女と神職との切ない恋を通して、
志摩に生きる女性の強さ、輝きを描き出した『いそぶえ』。
真っ白な魂が響き合い、深い感動が胸を打ちます。
若い海女の潔い生き方を縦糸に、志摩の風土を横糸として織り込んだ谷村さんに、
この一冊にこめた思いを聞きました。

「海女サミット」は宝箱

――『いそぶえ』には昭和30年代の志摩の様子がリアルに描かれ、言葉も志摩弁そのもの。入念な取材がうかがえます。取材はどのように。

縁もゆかりもなく不安だったのですが、海女さんや地元の人たちが助けてくれました。「こういう場所を探している」というと地図を広げて教えてくれて、主人公の孝子が通う設定になっている志摩高校では50年史などの資料をお借りしたりして。

――海女漁についての取材は？

ある海女さんからは、子ども時代の思い出を海女小屋で聞かせてもらいました。海女さんが海から顔を出し、空気を吸い込む瞬間に鳴るいそぶえの音を聞かせてもらったのもその時でした。

「海女サミット」が毎年開かれていることを知ってからは現地に出向くようにしました。海女さんについて書かれた本は意外に少ないので、全国の海女さんたちが参加されるサミットは、私にとって宝箱でした。海の博物館（鳥羽市）の石原義剛（よしたか）館長にも支えていただき、能登半島の輪島まで同行させてもらい、輪島の海女さんたちの存在を少しずつ知っていきました。（日本海は）冷たい海ですから。

――志摩の自然の中での取材で感じたことは。

まず感じたのが、のどかで広々としていて、いいところだな、ということです。取材を重ねる中で、海があれば入りたい、泳いでみたい、潜れるなら潜りたい……という自然な思いに駆られるようになりますね。海にいなくても海女さんの姿が目に浮かんでくるように。

食べ物もおいしかったです。魚介類だけでなく、海藻なども種類が豊富で。その時期にしか食べられない種類のアオサなど、調理法や食べ方もいろいろあって、その一つ一つに土地の人たちの知恵があるようで、余計においしかったです。

海と生きる潔さ

――海女さんの取材でも濃密な時間を。

海とともに生きる人たちには、潔さを感じます。身一つで海へ潜って稼ぐたくましさだけでなく、実は本当に心が細やかなんです。大きな声で笑い、おしゃべりする明るさの一方で、互いを思いやる距離感、やさしさ、すがすがしさを感じました。漁の成果を競い合う現場なので負ければ「悔しいわ」、勝てば「もうけた、もうけた」などと言い合っているのですが、悪口は言わないんです。命がけの仕事なので身を寄せ合い、何かあったら助け合う、それも人間関係の知恵なんですね。

主人公と旅をして

――志摩の取材で小説に生かせたものは？

主人公の孝子と恋人の武雄のキャラクターは、志摩で得た感覚から生まれたものです。志摩には神道の気配が色濃く残っていることを感じました。神はどこにでも宿っているのだから、誰かが悲しむようなことをしてはいけないというのが、私の感じる神道でした。それを、武雄の生き方に結びつけました。孝子にも、この地での経験を生かしています。取材中に見た光景がストーリー展開のアイデアを出してくれたこともあります。

――例えばどんな光景でしょう。

志摩市の安乗（あのり）（阿児町（あごちょう））で取材の際、たまたまお葬式があったんです。光がすごくきれいな中での葬列で、何か深く感動しました。その時、とてつもなく孝子の気持ちになり、祖母をこのように見送ったら孝子はどうするだろうかと考え、彼女の決断につなげるといった具合に。

南張（なんばり）（浜島町）でも、高台に登ってぼんやりと海を見ながら「孝子はここで畑仕事をしながらどう思ったんだろうな」と考えたこともあります。孝子と一緒に旅をしていたような感じでしたね。

――新作の『アンクランプ』は移植医療がテーマ。海女とは対照的なテーマを選ばれました。

一見真逆（まぎゃく）にあるテーマのようですが、人間の本質へ向かってアプローチしたいという点では、私にとっては共通しています。『いそぶえ』では身一つで海に潜る人間に宿る思いを、今度は先端医療の世界で生きていく医療者たち、患者たちの心の中に生じる思いを書きます。人間の本質は、多面体だと思っていますので。

――『いそぶえ』で始まったご縁。このまま終わってしまうのは寂しい気がします。

実は三重県との間で「いそぶえツアー」というプランが持ち上がっています。以前、鈴木英敬（えいけい）知事に「三重県の魅力をもっと紹介できるといいですね」と話したことがあり、それを鈴木知事が覚えていてくださって。県の職員の方と当方のスタッフが計画を練っています。実現すれば、ご縁はまだ続きそうです。

2014年秋に志摩市で開かれた海女サミットで、磯着姿の海女さんたちに囲まれて。（谷村志穂さん提供）

『いそぶえ』
昭和30年代の志摩半島を舞台に、海女と神職の青年との波乱の恋を軸に、人を愛すること、地域の中で生きることの意味、家族の絆を問いかける長編小説。
幼い頃に母を亡くし、大海女と呼ばれた祖母のもとで志摩の海で育った海女の孝子が伊勢の神社の跡取り息子の武雄との恋に落ちる。2人は惹かれ合いながらも境遇の違いや友情、人間関係の狭間で悩み、隔てられていく。海女たちのやさしさ、たくましさに包まれながら、美しい志摩の自然の中で紡がれる切ない恋は、孝子の祖母の死を契機に急展開していく。
2014年、PHP研究所刊。1944円。

たにむら・しほ
1962（昭和37）年、札幌市生まれ。北海道大学を卒業後、雑誌編集者などを経て作家に。1990年、『結婚しないかもしれない症候群』（角川文庫）がベストセラーになり、流行語にも。1991年、処女小説『アクアリウムの鯨』（八曜社/角川文庫）を刊行し、自然、旅、性などの題材をモチーフに長編・短編小説を執筆。紀行、エッセイ、訳書なども手掛ける。2003年、北海道を舞台にした『海猫』（新潮社）が第10回島清恋愛文学賞を受賞し、2004年に映画化された。このほかの著書に『余命』（新潮社、映画・テレビドラマ化）、『暗闇のリラ』（実業之日本社）、『尋ね人』（新潮社）、『ボルケイノ・ホテル』（光文社）などがある。移植医療をテーマにした『アンクランプ』を「小説新潮」に連載中。
2014年秋に志摩市で開かれた「海女サミット」では、「海女さん賛歌」をテーマに講演した。

後書き帳

海女さんへの思いを、言葉を選びながら静かに、ゆっくりと話してくれた谷村さん。その表情がはじけた瞬間がありました。海女のいそぶえに話題が移った時です。「いそぶえの音は、海女さん一人ひとり違うそうなんですよ。『ブエー』とか『ゲホゲホ』といった音もあったりして」。物悲しくロマンチックな響きという「定説」を覆す衝撃の発言。当方も驚かされ大爆笑です。そこまで踏み込んだ取材の深さ、さすがです。（安藤正雄）

伊勢志摩エコツーリズム
ガイドさんのおすすめ体験 Vol.2

シーカヤックで里海の魅力を満喫（志摩市）

取材・文＝中川絵美子
撮影＝阪本博文

海面下の海の森「アマモ場」を上から観察。

伊勢志摩には海や山、離島などでの体験を案内してくれるガイドさんがいます。このコーナーでは、そんなガイドさんおすすめの体験にチャレンジします。今回は、志摩自然学校で、英虞湾（あご）でのシーカヤックに初挑戦。美しいリアス式海岸の入江にシーカヤックで入り込み、大小の島々を周遊したり、無人島に上陸したりしながら、英虞湾の自然を満喫します。

案内人

志摩自然学校
西井 要（にしい かなめ）さん

志摩自然学校のガイドスタッフ。日本カヌー連盟ＪＲＣＡ公認インストラクター。設立当時からのスタッフでもある。志摩市で生まれ育ち、英虞湾の自然や磯の生き物に詳しい。高校生、中学生、小学生の3人姉妹の母でもある。

志摩市の中心部から車で約20分。志摩半島のほぼ中央に位置する志摩市大王町、英虞湾の美しい夕景で知られるともやま公園の中に「志摩自然学校」はあります。志摩の海や山、里などで多彩なアウトドア・ネイチャープログラムを提供している体験施設です。

人と自然が共生する「里海」を体感するプログラムがたくさん。

英虞湾でのシーカヤックは、なかでも一番人気のプログラム。シーカヤックは、カヌーの一種で、海で使うことを目的に作られており、障害物のほとんどない水域を最短で漕行できるような直進性の高いデザインが特徴です。子どもから大人まで、年齢を問わず、初心者も気軽に体験ができます。

大小64の島々やいくつもの入江が織りなす穏やかな英虞湾は、シーカヤックを安全に楽しめる絶好のフィールド。養殖真円真珠の発祥地らしく、湾のあちらこちらに真珠養殖のいかだが浮かび、シーカヤックでのんびり周遊しながら、英虞湾の自然とともに暮らす人の営みを間近に見ることができます。

スタート地点は、英虞湾に面して南北の両方に浜がある次郎六郎海水浴場。浜辺で約20分程度シーカヤックの操作や注意点について講義を受けてから、海へ出ます。日差しの強い日でしたが、海の上は風が吹いていて、陸地よりも涼しく感じます。海上で約５分、進み方や曲がり方を教わったら、本格的に漕ぎ出します。最初は少し重く感じたパドルの操作も、慣れてくると行きたい方向へ進めるようになり、楽しく感じます。

自転車と同じくらいのスピードで、のんびりと目の前の無人島・兎山島（うさぎやま）を目指します。途中、アクアスコープで海の底を覗きこむと海底にミル（海藻）やヒトデなどがみえます。「湾口に近いほど、生き物がたくさん見られるんですよ。潮の入れ替わりが多く、豊かな環境になるんです」と西井さん。浅瀬が続く沿岸部では、場所によって変化する水面下の風景を観察するのも楽しみのひとつです。

さまざまな魚や貝などが見られる。

約20分で兎山島に到着。干潟で生き物の観察をします。最初に見つけたのは、イトマキヒトデ。おそるおそる触ると、意外とかたい感覚に驚きます。岩場にはぎっしりとフノリなどの海藻が繁っています。ほかにもウシノシタ、イシダタミ、クモヒトデ……など、初めて出会う生き物がたくさん。夏は、水着とシュノーケルを身につけて来れば、濡れるのを気にせず、思う存分、磯観察が楽しめます。約20分間、たっぷり磯遊びを楽しんだら、ふたたび、シーカヤックに乗り込みましょう。

帰りは、兎山島をぐるりと周遊して戻ります。漕ぎながら聴こえてくるのは、パドルを漕ぐ波の音、入江の島々を飛び交う野鳥の声……。とても静かな環境です。

真珠養殖のいかだの間を縫うように進む。

時おり、真珠養殖のいかだで作業をする小船が近付くと、小さな波が立ちカヤックがゆらりと揺れます。穏やかな英虞湾の日常に溶け込むような感覚。ピチャン、

第27回 全国菓子大博覧会・三重
テーマ お菓子がつなぐ「おもてなし」を世界へ
開催期間 平成29年4月21日（金）～5月14日（日）
会　場 三重県営サンアリーナ及びその周辺（伊勢市）
シンボル展示／工芸菓子展示／全国のお菓子の販売／フードコート
お問い合せ 第27回全国菓子大博覧会・三重実行委員会事務局
〒516-8566 伊勢市勢田町628番地2 三重県伊勢庁舎
TEL 0596・63・5489 FAX 0596・63・8527
http://www.kashihaku-mie.jp

場所によって海の色も少しずつ変化する。
海水が緑色にみえるのはミネラルが豊富な証拠だ。

事前に講習があるので、初心者も安心。

大潮のときの干潟で海の生き物を観察。

と小さく水がはねる音がしました。「小魚が跳ねたんですね」と西井さん。「小さいときは静かな内湾で成長して、大きくなったら外海へ出て行くんです。6月頃には、ボラやイワシ、アジの赤ちゃんが大群で水面を跳ぶようすがみられますよ」。

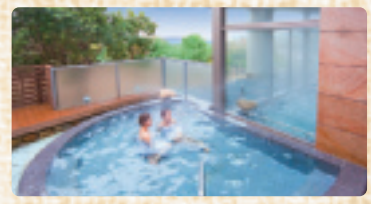
途中、アマモがたくさん生えている場所を発見しました。アマモは、内湾の波静かな砂泥のところに生育する海草。アマモが群生するアマモ場は、「海のゆりかご」と呼ばれ、魚介類の産卵場や餌場として大切な場所です。しかし、海洋環境の悪化により、全国的にアマモ場の減少が問題になっています。伊勢志摩も例外ではありません。「10年くらい前までは、アマモ場がたくさんありましたが、今ではなくなっているところも多いですね」と西井さん。

体験開始から約1時間半。スタート地点の次郎六郎海水浴場へ戻ってきました。英虞湾の海の豊かさ、自然と人が共生する里海の魅力を満喫できる、シーカヤックツーリング。志摩自然学校のプログラムには、夕暮れ時に空や海と茜色に染まりながら、また海ホタルや満月を眺めながらカヤックを漕ぐという、昼以外の体験も用意され、英虞湾の多彩な表情を感じることができます。

立ち寄りスポット

ともやま公園
100haの敷地内にキャンプ場、バーベキューサイト、遊歩道、海水浴場などが整備され、志摩の自然の魅力に触れることができる。
所 志摩市大王町波切2199
TEL 0599-72-4636

桐垣(きりがき)展望台
英虞湾を見晴らせる展望台。夕景が有名。シーカヤックで周遊したコースを上から見下ろして見よう。



ホテル近鉄 アクアヴィラ伊勢志摩 伊勢志摩温泉「ともやまの湯」
シーカヤックのスタート地点・次郎六郎海水浴場のすぐ近くにある宿泊施設。英虞湾を見晴らす天然温泉があり、日帰り入浴可。疲れを癒やし、さっぱり帰ろう。
時 11:00~20:00 最終入場(日帰り入浴)
料 大人1050円、小学生550円
所 志摩市大王町船越3238-1
TEL 0599-73-8820

志摩自然学校
所 志摩市大王町波切2199 ともやま公園内
TEL 0599-72-1733

自然体験プログラム一例

●**英虞湾エコツアー・シーカヤックツーリング**(通年)
所要時間:1時間半もしくは3時間コースを選択
3時間　大人4860円、小人3240円
1時間半　大人3240円、小人2160円

●**ウォーターボールde自然体験**(通年)
所要時間:90分~約2時間
・ウォーターボール体験は約15分
・カヤックまたはデコフレーム作り約1時間
大人5400円、小人4320円

○この他にも季節に応じてさまざまなプログラムがあります。詳細はホームページを。
▶http://www.shima-sg.com/

宿泊棟を中心に、地中海沿岸の街並を再現。
散策やアクティビティを楽しみながら、
異国のリゾート気分を満喫できます。
宿泊・レストラン・カフェ・工房・ショップ・クルーズ

ヴィラスタイルステイ&リゾート
志摩地中海村
〒517-0403 三重県志摩市浜島町迫子2619番地1
ご予約お問い合せ TEL 0599-52-1226
http://puebloamigo.jp FAX 0599-52-1228

伊勢文化舎のホームページから
ぱるく伊勢志摩がダウンロードできます。
伊勢文化舎 検索
雑誌「伊勢志摩」「伊勢人」とフリーペーパー「いせびとニュース」のバックナンバー、単行本を紹介しています。
問 TEL
伊勢文化舎 URL http://www.isebito.com/ Eメール otayori@isebito.com

新 別宮へお参りに

20年に一度行われる、お伊勢さんの式年遷宮。
平成25年には内宮・外宮の両正宮で、そして昨年度には別宮14宮がすべて真新しくなりました。
遷宮を終えたばかりの真新しい別宮へお参りに――。
今回は、初夏にお田植祭でにぎわう、志摩市の伊雑宮を訪ねます。

取材・文＝中川絵美子
撮影＝阪本博文

神宮の別宮とは

伊勢神宮は内宮と外宮がよく知られていますが、ほかにもさまざまな神様をまつる神社が伊勢市内と近郊にあり、全部で125社あります。神宮125社は、正宮（内宮・外宮）、別宮、摂社、末社、所管社からなります。中でも「別宮」は、正宮と関わりの深い神様をおまつりする格式の高いお宮のことです。内宮の別宮は10所、外宮の別宮は4所あり、内宮・外宮の宮域、近郊を中心に、神宮とゆかりの深い志摩市（伊雑宮）や大紀町（瀧原宮）に点在しています。

内宮の第一別宮・荒祭宮

第２回

海山の幸豊かな御饌つ国 食のルーツを伝える 伊雑宮へ（志摩市）

近郊の漁師や海女からも信仰の篤い伊雑宮。旧暦6月25日の御祭（ごさい）の日には、海女や漁師が漁を休み、お参りする風習がある。

志摩の海人の信奉厚い“内宮の遙宮”

志摩市磯部町の中心近く、みずみずしい青田の中にこんもりと繁る杜が内宮の別宮・伊雑宮です。豊かな海の幸に恵まれた志摩は、倭姫命によって御贄地（御饌を供するところ）に定められ、古来、神宮と朝廷へ御料を貢進してきました。倭姫命が御贄地を定めながら志摩国を巡行されたときに、この地の伊佐波登美命が豊かな稲を奉ったことから、ここに神殿を造営されたといわれ、遠方ながらも「内宮の遙宮」として重んじられてきました。

祭神は、内宮と同じく天照大御神。近郷の人々からは「いぞうぐう」とも「いそべさん」とも呼ばれ、深い信仰を集めています。とりわけ漁師や海女は、この宮の磯守を身につけて、海に入るのが習わしといいます。

大鳥居をくぐり、参道を進み、まずは正殿へお参りしましょう。伊雑宮は、遙宮だけに伊勢の別宮にはない施設も備えています。大祭の神饌を調理する忌火屋殿、釣瓶で組む御井戸、御倉、祓戸などがみられます。10月25日の調献式はこの宮ならではの祭典で、地元で獲れた海幸、山幸が神前いっぱい奉献されます。

参拝の帰りは忌火屋殿から左へ折れて、勾玉池のほとりを行きましょう。池を囲む木立には、紅葉もみえて、秋にはまた格別の風情が味わえます。

大麻、守祓の授与などを扱う宿衛所の脇には根元が膨らんだ大楠が。巾着楠と呼ばれ、手を合わせていく人もあるそうです。

真新しく建て替えられた御井戸。

御前（みまえ）四社とともに鎮まる佐美長神社。

田植の予祝行事として行われる「竹取り」。奪った扇の笹と竹は、海上安全のお守りにするとか。

勇ましく、ゆかしくお田植え祭り

伊雑宮のすぐ南側には御料田があります。伊勢の神宮には、御料の米を作る神田が２つ。１つは、伊勢市楠部町にある神田、もう１つが伊雑宮の御料田です。鶴が稲穂をくわえてきた日本の稲の発祥地だという話が伝わる伝説の田です。

御料田の前には、黒木の鳥居（木皮つきの鳥居）があります。これは折々に神事を行う神宮の諸施設に建てられ、伊勢市楠部町の神田や二見浦の御塩浜にも見られます。

６月24日に行われる御田植式は、国の無形文化財にも指定されており、香取神宮（千葉県）、住吉大社（大阪府）のものとともに日本三大御田植祭として、たいへんなにぎわいになります。

祭りの日は、まず早乙女らが御料田に下り、手を取り合って回る「苗取り」が行われます。次いで、御料田の畦に立てられた大うちわを３度あおいで倒し、下帯姿の近郷漁村の青年たちが泥んこになって激しく奪い合います。その後、囃子に合わせて、古式ゆかしい衣装を着けた

http://www.iwatoya.co.jp
金時生姜を使った
岩戸屋の生姜糖
鮮やかな赤色をした金時生姜は、香りと辛味が大変強い分、美肌効果や花粉症を抑える効果があるといわれています。

お多福とともに
岩戸屋は今も昔も内宮前
伊勢・内宮前おはらい町
岩戸屋
TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322
PEARL BOUTIQUE
珠庵 JUAN
TEL 0596-23-6750
伊勢の土産＆ギャラリー ひゃくりんぼう
百鱗坊
TEL 0596-23-3236

ご参拝のあとは、おかげ横丁へ。

〒516-8558 伊勢市宇治中之切町52
TEL 0596-23-8838（総合案内）
http://www.okageyokocho.co.jp
伊勢内宮前 おかげ横丁

アクセス

伊雑宮まで

所 志摩市磯部町上之郷374
交 近鉄志摩線「上之郷」駅から徒歩3分
車で伊勢自動車道「伊勢IC」から
伊勢二見鳥羽ライン（松下JCT）経由、
第二伊勢道路「鳥羽南・白木IC」から約7分。

早乙女と立人が苗を植えていきます。植え終わると、一同の踊りこみで伊雑宮へ戻ります。式は午前10時から夕刻まで、一日をかけてのどかに行われます。祭りには、磯部の9つの地区の人々が毎年交代で奉仕しています。

時間が許せば、ここから800メートルほど離れた地に鎮座する伊雑宮の所管社・佐美長神社へも足を延ばしましょう。祭神は、大歳神。五穀豊穣の神で、この神が真名鶴に姿を変えて稲穂をくわえて飛んできたと言い伝えられます。

ひと休み

●御師の家

伊雑宮の御師を先祖に持つ森和夫さんが、築100年余の自宅を公開。資料などを展示しており、御師の話も聞くことができる。不定休。

志摩市磯部町上之郷407
（伊雑宮の北隣）
TEL 0599-55-0740

●志摩市歴史民俗資料館

伊雑宮の御神田、安乗（あのり）の人形芝居の展示や資料文献などを公開している。
志摩市磯部町迫間878番地9
TEL 0599-55-2881

●中六

伊雑宮の門前で味わえる鰻料理の老舗。代々注ぎ足して使っている甘めのたれが絶品。
志摩市磯部町上之郷392
TEL 0599-55-0028

神宮の祭り暦

御塩作り
夏の土用から8月上旬（伊勢市二見町）

伊勢市二見町にある御塩浜では、入浜式と呼ばれる古式通りの製塩法で御料の御塩を作っています。夏の土用になると御塩浜へ海水を引き入れ、かん水（濃い塩水）をつくる採かん作業が行われます。8月初めまでには、御塩殿神社の裏にある御塩焼所でかん水を2昼夜かけて焼き固め、荒塩作りが行われます。

抜穂祭
9月2日（水） 神宮神田（伊勢市楠部町）

神嘗祭に供える御料米の稲穂を刈り取る収穫の神事。稲を忌鎌で刈り、古式通りに稲穂を1本ずつ抜き取った抜穂を麻の紐で2つに束ねて、神様に奉納します。1カ月くらいで神田の全ての稲を刈り取り、乾燥させた後、内宮「御稲御倉」と外宮「忌火屋殿」に納められ、神嘗祭で初めて神様に新米が捧げられます。

伊勢神宮観月会
9月27日（日） 外宮・まがたま池舞台

「中秋の名月」の夜に催される風雅な月見の宴。全国から献詠された短歌と俳句の秀歌が冷泉流の作法で披露されます。楽師たちによって管弦も奏でられ、舞楽が奉納されます。

今年の詠題は「川（河）」。
7月21日（火）まで募集しています。
詳細は伊勢神宮広報課まで。
TEL 0596-24-1111

その他の祭・行事

6月30日	大祓（内宮第一鳥居内祓所その他）
7月18日	伊勢神宮奉納全国花火大会（宮川河畔）
8月 4 日	風日祈祭（風日祈宮ほか）
9月22・23・24日	秋の神楽祭（内宮神苑の特設舞台ほか）／神宮茶室の公開(内宮)
9月23日	秋季皇霊祭遙拝（内宮第一鳥居内祓所）

神宮のQ&A

回答＝神宮司庁広報課、文＝編集部

Q1. 神宮林とは、どんな森ですか？

A. 神宮が所有する広大な森林のことです。神宮宮域林としては、五十鈴川流域の神路山と島路山、宮川流域の前山に大別でき、外宮の森の高倉山などもあわせると、5600ヘクタール余りになります。伊勢市の森林のおよそ半分を占めています。神宮林は、式年遷宮の際、社殿を造り替えるのに必要な木材を供給するためにありますが、何よりも大神の鎮座される杜の森厳を保つという役目もあるのです。

Q2. 式年遷宮の御用材は神宮林から伐り出されているのですか？

A. 造営用材を伐り出す山は「御杣山」と呼ばれます。第1回式年遷宮から鎌倉中期までは、内宮は神路山、外宮は高倉山から遷宮用材を伐り出していましたが、やがて大樹が伐り尽くされ、鎌倉時代になると他山から良材を伐り出すようになりました。現在は、長野と岐阜にまたがる木曽の国有林から檜材を調達しています。しかし、大正時代に神宮森林経営計画が作成され、宇治橋付近から見渡せる山全体（第一宮域林）は風致林として天然林で残し、宇治橋から見えない反対側の第二宮域林でヒノキの植林が行われ、200～300年という長期展望で御杣山をつくろうとしています。第62回式年遷宮では、御用材のうち約25%、約1万本が宮域林から伐り出されました。

先駆者たち pioneer.2

真珠王 御木本幸吉翁

PROFILE

みきもと・こうきち

安政5年（1858）鳥羽のうどん屋「阿波幸」の長男として誕生。20歳東京・横浜へ見聞の旅。真珠に興味をもつ。23歳うめと結婚。30〜32歳、柳楢悦、箕作佳吉に出会い、啓発される。35歳相島で半円真珠の養殖に成功。英虞湾の多徳島に真珠養殖場を開設。長男・隆三誕生。41歳銀座に真珠店開く。47歳真円真珠完成。明治期からモスクワ、パリ、ニューヨークなどの博覧会に参加。93歳御木本真珠ヶ島開島。96歳（昭和29年）英虞湾に臨む自宅で永眠。

“真珠”の次に叶えたい夢は

発明王エジソンにも絶賛された人類史上初の養殖真珠の発明。世界で真珠王とよばれる御木本幸吉の次なる夢は、ふるさと伊勢志摩を国立公園に、という強い思いでした。

御木本幸吉の終の住居は、没後60余年の今もふるさとの海をいとおしむかのようにたたずむ。（非公開）

日本中を公園にしたい

鳥羽の日和山の中腹、海にむかって御木本幸吉の家は建っていました。客が訪れると「わたしが愛蔵する“光琳の屏風”をご覧にいれましょう」と前口上、部屋の障子をがらりと開け放つ。すると、眼下に小島を浮かべ紺碧に光る鳥羽の海！　百発百中の幸吉流もてなし術でした。

御木本幸吉は、秀でた国際感覚の持ち主で、「日本中を公園にしたい」が口癖でした。そうなれば日本を訪れる外国観光客も増え、さまざまなビジネスチャンスが生まれる。それにはまず、故郷の伊勢志摩を国立公園にしなくては――。

「**国立公園、実現運動。真珠王、御木本氏が奔走**（報知新聞・昭和5年12月9日）。」

「**国立公園の陳情。御木本氏ほか26名。県から内務大臣へ**（大阪毎日新聞・昭和6年1月27日）」。

80年余り前の新聞記事の大見出しですが、日本が国立公園制定（昭和9年、8カ所）を始めるかなり前から御木本幸吉は同志を募り、伊勢志摩国立公園の実現をめざし熱心に動いていた様子がうかがえます。

ところが、いよいよ実現しようという時、日本は太平洋戦争に突入。ついには昭和20年、無条件降伏。全土がGHQ（註）の支配するところとなったのです。

（註　連合国軍最高司令官総司令部）

真珠外交、光る！

終戦から3カ月、荒廃した国土復興を促進するGHQの施策のひとつに、国立公園が浮上しました。担当官は元ミルウォーキー博物館長のW・D・ポパム大尉。当時、進駐軍の将校やその家族、例えばマッカーサー元帥夫人などが、真珠王に会ってみたいとしきりに志摩へやってきました。御木本の養殖真珠は、戦前すでに世界にその名を知られていたのです。

ポパム大尉が国立公園の候補地視察にきた時も、88歳ながら幸吉翁は矍鑠としており、機嫌よく真珠をプレゼントなどして歓待したといいます。

戦前戦後にわたる真珠外交も功を奏し、伊勢志摩は昭和21年、戦後初、日本で13番目の国立公園に。真珠王のもうひとつの夢が花開いた時でした。

（文＝乾 淳子）

91歳の真珠王をマッカーサー元帥夫人が訪問。（ミキモト真珠島提供）

ゆかりの地　ミキモト真珠島（鳥羽市）　真珠の神秘と美、余すところなく

もとは離れ小島だった真珠島。海女の実演も人気の的。

ミキモト真珠島
鳥羽市鳥羽1-7-1　TEL0599-25-2028
JR・近鉄鳥羽駅より徒歩5分

御木本幸吉が愛妻うめと人類史上初の養殖真珠5粒を手にし、涙した記念すべき相島、それが今のミキモト真珠島です。

昭和26年（1951）に真珠のパビリオンとして再開。以来、日本の皇室をはじめ英国のエリザベス女王など、国内外から多くの見学者を迎えています。

真珠博物館では、1階に真珠養殖の工程や真珠のサイエンスなどを展示。2階は人と真珠のかかわりを語る世界のアンティークジュエリーの美しいコレクションや秘蔵の真珠工芸品を展示。ショップには、みごとなオリジナル真珠宝飾が並んでいます。

また御木本幸吉記念館では、江戸末に生まれ、明治・大正・昭和と激動の時代を生き抜いた一生が物語られています。

伊勢志摩国立公園の歴史には、この地に熱い思いを抱いて奮闘し、基礎を築き、発展に尽力してきた先人たちが刻んだ足跡があります。その夢と歩みをシリーズでたどります。

次回は【2人の恩人　GHQ ウォルター・ポパム大尉　旧厚生省技官 石神甲子郎】です。

MIKIMOTO
COSMETICS

一粒の真珠から発見された、美の可能性

自然が育んだ奇跡の宝石、真珠。その秘められた美力は、古くから世界中で注目されてきました。
ミキモト コスメティックスは、不断の研究を重ね、ヴェールに包まれていた真珠の美力を解き明かすことに成功。
1971年、真珠のタンパク質〈コンキオリン〉を配合した基礎化粧品「ムーンパールシリーズ」が誕生しました。
たゆみなく続く真珠研究は、真珠層・真珠貝由来のコラーゲンやミネラルの抽出にも成功し、最新の成果を積み重ねながら進化を続けています。

ミキモト銀座2　6階／日本橋三越本店／小田急百貨店新宿店／東武百貨店池袋店／千葉三越／仙台三越
お問い合わせ　0120-226-810（9:00〜20:00 土日祝日9:00〜17:00）　www.mikimoto-cosme.com
「ムーンパール」サンプルのお申込みは、店舗・お電話・インターネットで受け付けております。ミキモトコスメ 検索

ムーンパールシリーズ
8品種10点
7,000円〜15,000円
（税抜）

大王崎の茶屋に伝わる志摩風トコロテン

心太（トコロテン）。その涼やかな味を1000年余りの昔から伝えてきたのは、潜りの名人、海女さんたち！

いぬい・じゅんこ
旅の雑誌「伊勢志摩」創刊に参画。編集長時代に、『真珠王ものがたり』『お伊勢さんの遷宮』『宇治橋ものがたり』『三重の自然を歩こう』など、三重県全域をフィールドに数多くの単行本を手掛ける。顧問を経てエッセイストに。海外体験エッセイ『目からウロコがほろほろり』。

撮影＝鈴木和宏

夏が来ると、無性に恋しくなるのがトコロテンです。奈良時代の昔、御食（みけ）つ国から宮中へ原料のテングサを送ったと正倉院の木簡（もっかん）に記されているそうですから、夏にトコロテン、どうやらDNAのなせるわざなのでしょう。

志摩の夏は、海女さんたちのテングサ採りの季節。ところが、彼女たちのほんとうのお目当ては高級食材のアワビやサザエであり、テングサは「ついでにむしってくるくらいやな」とややつれない反応です。

それでも、志摩のおやつ時に手作りトコロテンは欠かせないし、盂蘭盆（うらぼん）には「空の鏡（からのかがみ）」といって、ご先祖さまへのお供えに必須の一品とか。志摩のトコロテン、食べないわけにはいきません。

テングサの漁期は3月から7月。海女たちが潜って収穫する。

絶景で知られる大王崎に志摩風トコロテンを食べさせてくれる茶屋があると聞いて、訪ねました。

波切（なきり）港から岬への坂道を登りきると、白亜の大王埼灯台がすっくと目の前にたっています。そのすぐ向かいにあるのが「福福茶屋」、福井久起（ひさき）さん（62）と知佐子さん（52）夫妻のお店です。

「うちのトコロテンは、安乗（あのり）で海女をしとった母親のやり方がもとですんや。それに、いろいろわたしらの工夫も加えて食べてもらっています」と久起さん。この茶屋を始めたのもお母さんの代で、手間ひまのかかるテングサのさらし方から、つゆの味つけまで、そのコツを入念に伝授してもらったようすです。

福福茶屋の定番トコロテン（手前）薬味の刻み玉ネギをのせ、ダシつゆごと一本箸でツルツルッといただく。ほかに、抹茶、コーヒー味など、さいの目切トコロテンにきな粉まぶしもある。

トコロテンの味つけといえば、酢じょう油に練り芥子、あるいは甘い黒蜜、どちらかが定番と思っていましたが、志摩風は――。↙

採りたてのテングサは赤茶色だが、水をかけては太陽にさらすうちに、脱色。これを乾燥保存してトコロテンの原料とする。

↘知佐子さんがお盆で運んできたのは、ひんやりと器に盛ったトコロテン＋小皿に刻み玉ねぎ＋特製ダシつゆ。これを割り箸を割らずに一本箸でどうぞ！　ときました。ちょっと驚きです。

ツルツルッとすると…ほのかな磯の香に玉ねぎのツンとした香、それに深い味わいのダシつゆ――この取り合わせ、なかなかイケます。

トコロテンづくりは、まずテングサをぐつぐつ煮る。

まてよ、どこかで食べたような、と思いめぐらすと、そうそう、青ネギを薬味にしたお蕎麦の食べ方に似ています。

「ダシは、上質の昆布、それに地元のかつお節ですから、うまいはずですよ」と自信ありげな久起さんの言葉に、あ、ここは本格派の鰹節・波切節（なきりぶし）の産地なのだと思い当たりました。

“絵描きの岬”の愛称ある大王崎は、どちらを向いても絵心を誘われる海や港の風景が広がっています。少し歩いてみたくなり、近畿自然歩道のコースにそって波切神社の石段をのぼりました。毎秋、大わらじを海へ流す〈わらじ祭り〉の神事が行われる神社です。

さらに、椿の茂る小道を過ぎると、ぱっと視界が開けて、真っ青な大海原。その水平線のかなたに晴れた日には富士山が見えるとか。その高台から下ると、カツオ漁で知られる波切漁港。外洋の荒波を防ぐ突堤が幾何学模様のようです。港を囲む斜面には石積みとコンクリートに守られた家々。海の豊かさ、そして、厳しさを物語る心にしみる風景でした。

大王崎は絵描きの岬、といわれる伊勢志摩でも屈指の景勝地。大王埼灯台は日本の灯台50選の1つ。熊野灘と遠州灘を二分する海の難所を守る。参観寄付金200円（中学生以上）

トコロテン突きで一気に！

福福茶屋のトコロテン
特製ダシ、抹茶・きな粉など
各種350円

＊花の寺で知られる大慈寺（大王町波切）のあじさい祭りには毎年寺特製のトコロテンが出される。

＊さらしテングサ（トコロテンの原料）袋入り（500円）がみやげもの店で入手できる。

アクセス
近鉄鵜方駅前から三交バス御座港行き、波切下車。車の場合は、同鵜方駅から波切までR260号を約10㎞。

「福福茶屋」
志摩市大王町波切52
☎0599-72-0302

真珠のふるさとから生まれたお土産

天然パールシェルカルシウム入りの味なマドレーヌ。

Blanca ブランカ

鳥羽本店 鳥羽市鳥羽3-15-3 鳥羽市役所前
10:00～18:00 年中無休
TEL 0599-25-5999

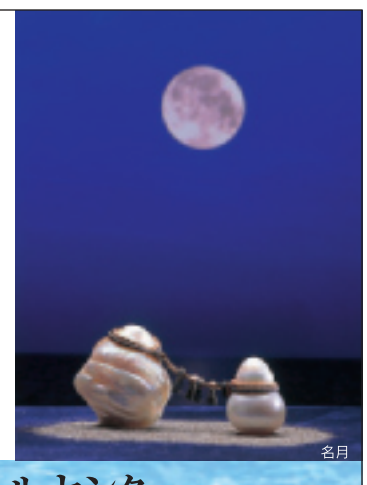
http://www.blanca.co.jp/

県内のイオン・スーパー・近鉄駅売店他でお求めください。

真珠が生みだす神秘の世界

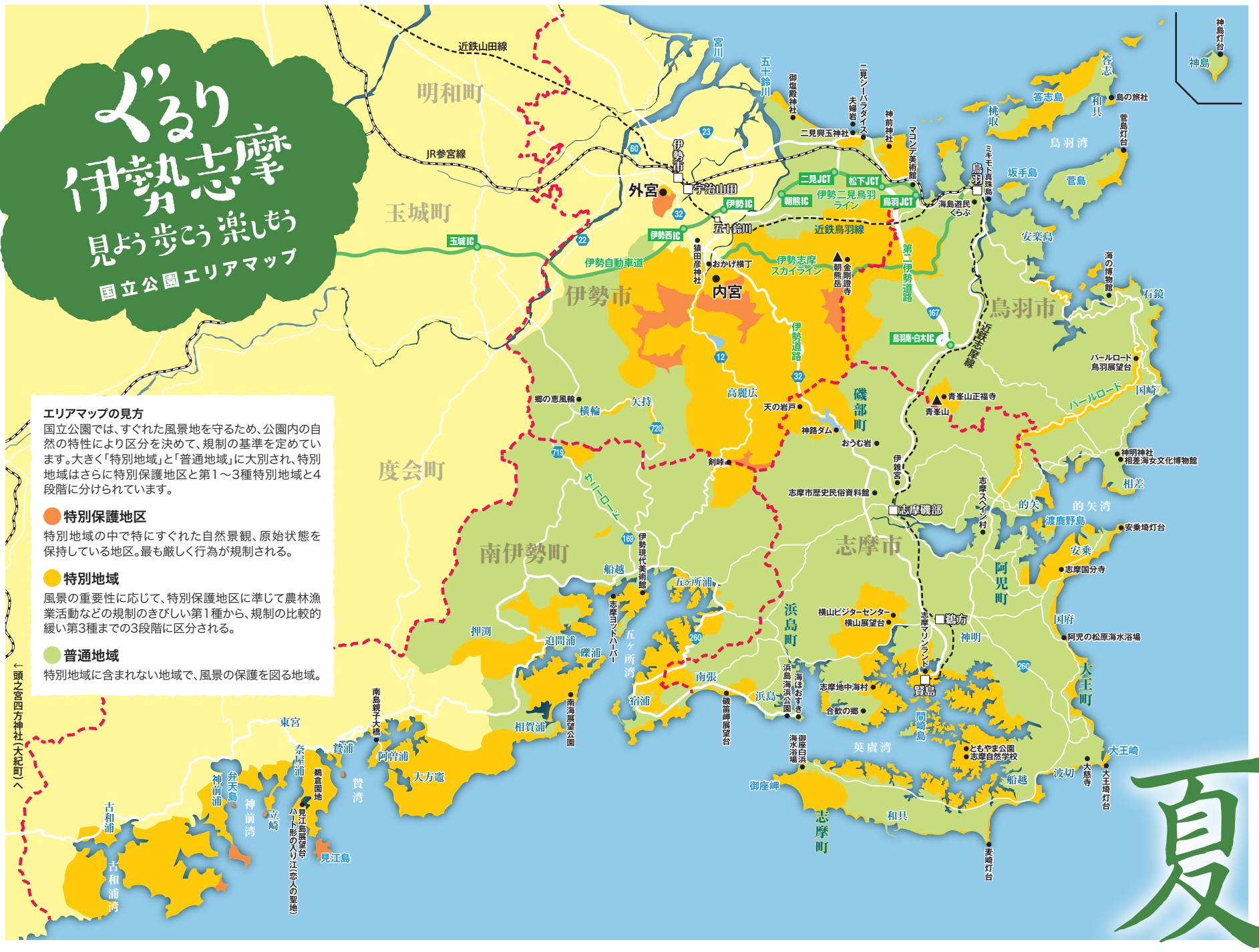
小西パールコレクション
各種真珠の加工、デザインの変更など、真珠に関することはお気軽にご相談下さい。店内にはファンタジー作品「小西パールコレクション」を常設展示しています。
（伊勢まちかど博物館）

川は流れる


名月

真珠の病院・伊勢パールセンター
伊勢市二見町松下1742-8／Tel.0596・43・4311㈹／Fax.0596・42・1655／火・水・木曜日定休
鳥羽駅からバス伊勢市方面行き 池の浦下車すぐ／0120・68・4311

ぐるり伊勢志摩
見よう歩こう楽しもう
国立公園エリアマップ



エリアマップの見方

国立公園では、すぐれた風景地を守るため、公園内の自然の特性により区分を決めて、規制の基準を定めています。大きく「特別地域」と「普通地域」に大別され、特別地域はさらに特別保護地区と第1～3種特別地域と4段階に分けられています。

特別保護地区

特別地域の中で特にすぐれた自然景観、原始状態を保持している地区。最も厳しく行為が規制される。

特別地域

風景の重要性に応じて、特別保護地区に準じて農林漁業活動などの規制のきびしい第1種から、規制の比較的緩い第3種までの3段階に区分される。

普通地域

特別地域に含まれない地域で、風景の保護を図る地域。

夏

編集部のおすすめ!!情報

●間崎（まさき）島ツアー 島の自然を満喫しよう！

英虞湾に浮かぶ志摩市の離島、間崎島の自然が満喫できる「里海ツアー」が4月から開かれています。

地域活性化に取り組む間崎自治会と間崎島振興会が運営。間崎老人会が協力し、季節に応じて自然とのふれあいや島民との交流が楽しめる体験を実施します。

夏に向けて、貝殻アート（6/21）、夏野菜の収穫（7/5）、子供魚つかみ（7/20）が体験できるほか、椿油搾り（9月）やキンコ芋作り（10月）など、島ならではの体験も予定されています。

またツアー以外にも夏限定のイベントとして、7/25～8/23までの土日にビーチを活かした海の家もオープンします。今年の夏は間崎島を訪れ、島の自然や目の前に広がる英虞湾の美しさを体感してみては。

問 志摩市地域おこし協力隊　TEL 090-8333-3545（田口彰一さん）
○参加費は700～1300円（体験によって金額が変わります）

●季節を彩る花々を見ながら散策しよう

神宮美術館の庭園が3月から一般公開されました。市民や神宮参拝者の憩いの場として整備され、四季折々の植物が楽しめます。

庭園はかつて農業館の付属植物園があった場所で、面積は約6700平方㍍。明治時代に植栽した台湾原産の貴重な植物に加え、新たにツバキやウメなどを植栽し、円形の花壇も設置しました。

6月から9月にかけてサルスベリ、ムクゲ、ユリ等の花が見頃を迎えます。

時 9:00～16:30（美術館の開館時間と同じ）
※入園無料
休 月曜
所 伊勢市神田久志本町1754-1
問 神宮美術館　TEL 0596-22-5533

●鳥羽の李さん「現代の海女」を出版

中国遼寧（りょうねい）省出身で鳥羽シーサイドホテル従業員の李相海（りしょうはい）さん（44）が、海女への思いや現状をつづったフォトエッセー集「現代の海女 伊勢志摩の海女に魅せられて」を出版しました。

李さんは、伊勢志摩の風景を撮影するうちに海女に関心を持ち、海女の祭りや現役の海女たちを取材。

エッセー集では鳥羽市の「しろんご祭り」など地元の海女の祭りを中心に写真入りで紹介。「苦労してきた海女にスポットライトを当てたい」という李さんの思いが詰まった一冊となっています。

料 1296円（税込）
○インターネット通販サイト「アマゾン」で購入できます

●ハートの入り江が「恋人の聖地」に！

南伊勢町のパワースポットとして知られる「ハートの入り江」（かさらぎ池）が、NPO法人地域活性化支援センター（静岡市）から「恋人の聖地」に認定されました。

全国各地の観光地でプロポーズにふさわしい場所を「恋人の聖地」に認定していて、県内では鳥羽市の神島に次いで2カ所目。

今後は、ハートの入り江の見える見江島展望台に記念の鐘を設置するなど、さまざまなイベントが予定されています。

所 南伊勢町道行竈
問 南伊勢町観光商工課
TEL 0599-66-1501

伊勢文化舎・出版物のご案内

お問い合せ・ご注文は、伊勢文化舎のホームページ、または直接当社までご連絡ください。
http://www.isebito.com/　TEL 0596·23·5166　FAX 0596·23·5241

伊勢のお木曳

神領民の心と技を伝える、お木曳のすべてがわかる本。全79奉曳団を完全収録。

1400円＋税　B5判256頁

伊勢のお白石持

臨場感あふれる写真とともに、お白石持の歴史、奉献の知識などを詳しく解説。貴重な遷宮祭の写真と記事も掲載。

1400円＋税　B5判208頁

お伊勢さんと遷宮

山口祭に始まる約1500の祭・行事とともに、お伊勢さんに奉仕するさまざまな人々の営みを紹介している。

1300円＋税　A5変形判144頁

お伊勢さん 125社めぐり

伊勢神宮の摂社・末社など全125社の鎮座の由緒や周辺の歴史・文化を解説した、持って歩けるガイド。

1200円＋税　A5判160頁

季節のまつり

6月

朝熊山開山忌
時 6/27(土)～29(月)
所 伊勢市、金剛證寺
問 金剛證寺 TEL 0596-22-1710

7月

第3回七夕祭り
時 7/4(土) ※雨天の場合は5(日)に順延
所 志摩市阿児町鵜方、宇賀多神社
問 七夕祭り実行委員会
TEL 080-2642-3409(代表・枡屋さん)

第9回新宿トラッド ジャズフェスティバルin鳥羽
時 7/5(日) 18:00～21:00
所 鳥羽市、鳥羽市文化会館大ホール
問 ジャズフェスティバル実行委員会
TEL 0599-25-2554
○関東在住のジャズバンドによるジャズフェスティバル。当日13:00～14:00まで「鳥羽大庄屋かどや」にてプレコンサートを開催する。

伊勢志摩・里海トライアスロン
時 7/5(日)
所 メイン会場:志摩市浜島町、大矢浜海水浴場
問 伊勢志摩・里海トライアスロン大会実行委員会
TEL 0599-44-4450

方座浦の浅間祭
時 7/11(土) 11:00～
所 方座浦地区全域、浅間神社
問 方座浦区事務所 TEL 0596-76-1810

○浅間信仰からうまれた祭り。幣竹を持ち、地区内を踊りながらお神酒を注ぐ。昼頃、浅間神社へ幣竹を奉納する。

二見大祭　しめなわ曳
時 7/14(火)
所 伊勢市二見町、JR二見浦駅～二見興玉神社
問 しめなわ曳実行委員会
TEL 0596-43-2363
○夫婦岩に張り替えられる5本の大注連縄を奉曳車に載せて二見興玉神社へ奉納する伝統行事。

潮かけ祭り
時 7/16(木)
所 志摩市志摩町和具、和具漁港周辺
問 志摩市観光協会
TEL 0599-46-0570
○大漁祈願、海への感謝で船同士が海水をかけあうユニークで荒っぽいお祭り。船出港は9:30頃～。

第63回伊勢神宮奉納全国花火大会～伊勢市制施行10周年記念～
時 7/18(土) 19:20～
所 伊勢市、宮川河畔(度会橋上流)
問 伊勢市産業観光部観光振興課
TEL 0596-21-5542

河崎天王祭
時 7/19(日)
所 伊勢市河崎町一帯
問 河崎商人館 TEL 0596-22-4810
○「河邊七種神社」の例祭。神輿やメロディ鼓隊、勢田川での水中金魚花火、夜店、河崎音頭などで盛り上がる。

神宮奉納伊勢薪能
時 7/25(土)
所 伊勢市、伊勢神宮外宮せんぐう館奉納舞台(まがたま池畔)
問 神宮奉納伊勢薪能実行委員会
TEL 0596-24-5575
○能「阿漕」、狂言「附子」等を奉納する。

渡鹿野天王祭
時 7/25(土)
所 志摩市磯部町渡鹿野、八重垣神社
問 志摩市観光協会
TEL 0599-46-0570
○ご神体を神輿に遷す儀の後、島内を神輿が練り回る悪魔祓い、海上の仕掛け花火が夜空を彩る。

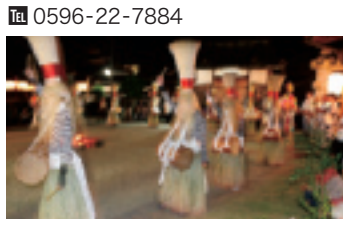
ビア祭り in 南伊勢
時 7/25(土) 18:00～
所 南伊勢町町民文化会館駐車場
問 SEA BROS (シーブロス)
TEL 090-5105-2311
○1日限りのビアガーデン。出店やパフォーマンスもあり。

8月

外宮さんゆかたで千人お参り
時 8/1(土)
所 伊勢市、伊勢神宮外宮およびその周辺
問 外宮にぎわい会議
TEL 090-3257-7674(坂田さん)
○八朔参宮の風習を伝える伊勢らしい夏の風物詩。当日は外宮、月夜見宮に21:00まで参拝できる。

波切の大念仏
時 8/14(金)
所 志摩市大王町波切、波切漁港周辺
問 志摩市観光協会
TEL 0599-46-0570

かんこ踊り
時 8/15(土)伊勢市円座町、正覚寺
8/16(日)伊勢市佐八町、公民館前広場
問 伊勢市文化振興課
TEL 0596-22-7884



○シャグマと呼ばれる白馬の毛で作られたかぶりものを振りながら、かがり火を中心に鞨鼓を叩いて夜更けまで踊る精霊踊り。国の無形民俗文化財。

佐瑠女神社例大祭
時 8/17(月)・18(火)
所 伊勢市、佐瑠女神社(猿田彦神社境内)
問 猿田彦神社
TEL 0596-22-2554

wideloop in 答志島 beach party
時 8/29(土)17:30～8:00
所 鳥羽市答志島、ブルーフィールド白浜
問 www.wideloop.info
TEL 090-1557-8499(重田さん)

9月

夫婦岩大注連縄張神事
時 9/5(土)
所 伊勢市、二見興玉神社
問 二見興玉神社
TEL 0596-43-2020

来る福招き猫まつり
時 9/13(日)～29(火)
所 伊勢市、おかげ横丁
問 おかげ横丁総合案内
TEL 0596-23-8838

安乗人形芝居
時 9/15(火)・16(水)
所 志摩市阿児町安乗、安乗神社境内安乗人形芝居舞台
問 志摩市観光協会
TEL 0599-46-0570
○国の重要無形民俗文化財に指定されている歴史の古い人形芝居。

わらじ祭り(本祭り・わらじ流し)
時 9/17(木)(神事日)・9/19(土)(イベント日)
所 志摩市大王町波切、波切神社周辺
問 志摩市観光協会
TEL 0599-46-0570

○巨人・ダンダラボッチ伝説にまつわるお祭り。神事日には稚児によるわらじ曳き、イベント日には2㌧にもなる大わらじを海に流すわらじ流しが行われ、出店などでにぎわう。

アート・企画展

五十鈴蔵
時 伊勢市宇治中之切町26
赤福本店・五十鈴茶屋本店横
TEL 0596-22-2154(株式会社赤福)
「餅街道ものがたり展」
期 開催中～平成29年3月末頃(予定)

賓日館(ひんじつかん)
所 伊勢市二見町茶屋566-2
TEL 0596-43-2003
「夏の装いとミニ着物展 賓日館観光大使 南部美智代」
期 開催中～6/28(日)
○着なくなった夏物の着物をミニ着物に仕立て直した作品を展示。
「尾之善切り絵の世界」展
期 7/4(土)～8/2(日)
○切り絵工芸作家・尾之善による切り絵の作品展。

マコンデ美術館
所 伊勢市二見町松下1799
TEL 0596-42-1192
企画展「リランガの絵画展」
期 開催中～8/31(月)

ミキモト真珠島　真珠博物館
所 鳥羽市鳥羽1-7-1
TEL 0599-25-2028
企画展「ブライダルティアラ ―進化する憧れのかたち―」
期 開催中～平成28年3/27(日)

伊勢現代美術館
所 度会郡南伊勢町五ケ所浦102-8
TEL 0599-66-1138
企画展「ミコライ・ポリンスキー展」
期 7/9(木)～9/28(月)

体験・エコツアー

五十鈴塾
所 伊勢市宇治浦田1丁目5-3
TEL 0596-20-8251
伊勢の真夏のお水汲み
時 7/24(金)
所 伊勢神宮・内宮宇治橋前9:00集合
料 1400円
○夏の土用の丑の日に五十鈴川のお水を汲んで、神棚にあげておくと無病息災に過ごせるという風習にちなんだ講座。定員20名。(要予約)

海島遊民くらぶ
所 鳥羽市鳥羽一丁目4-53
TEL 0599-28-0001
海ほたると4億年のタイムスリップ!ツアー
期 7月中旬～9月上旬(金土日のみ)
所 鳥羽市浦村
料 3500円
○4億年前からほとんど形を変えることなく生きてきた海ほたるを、しかけを使って採取して観察。要事前申込み。
※詳細は海島遊民くらぶへお問い合わせください。

島の旅社
所 鳥羽市答志町943
TEL 0599-37-3339
浮島自然水族館
時 7/4(土)、5(日)、18(土)、31(金)、8/1(土)、3(月)、29(土)、30(日)
料 大人3000円、中・高校生2000円、小学生1500円

○大潮の干潮時刻に合わせて、沖合に浮かぶ無人島に船で渡り、干潟の生き物を観察できる。
海女漁体験獲れたて伊勢えびプラン
時 9月～10月　料 6500円～
○鳥羽の離島は、県内でいち早く伊勢エビ漁が解禁になる。大きな伊勢エビまるごと一尾贅沢に味わえる。
※すべて要事前申し込み。
詳細は島の旅社へお問い合わせください。

海の博物館
所 鳥羽市浦村町大吉1731-68
TEL 0599-32-6006
磯の生きもの観察会
時 7/5(日)、18(土)、19(日)、8/2(日)、30(日)
干潟の生きもの観察会
時 7/4(土)、8/1(土)
料 各回小学生以上1200円(要予約)

鳥羽水族館
所 鳥羽市鳥羽3丁目3-6
TEL 0599-25-2555
トバスイ体験クエスト
期 7/18(土)～8/31(月)
○生きものとのふれあい体験、標本から学ぶレア体験、クイズラリーなど館内各所に散りばめられた体験を楽しめる。
60周年記念 限定スペシャルナイト
期 8/2(日)～8(土)
○開館60周年を記念した1週間限定のナイト営業。発光実験や飼育係・学芸員による案内やスペシャルトークなど盛りだくさん。

志摩自然学校
所 志摩市大王町波切2199
TEL 0599-72-1733
第6回志摩の国海女漁体験ツアー
期 7/25(土) 9:00～15:00(雨天時は8/1)
料 19000円
○志摩の海女さんと一緒に潜水体験をして本物の海女小屋で昼食を楽しむ。要事前申し込み。募集人数は8名(先着順)。申込締切6/30。詳細は志摩自然学校へお問い合わせください。

横山ビジターセンター
所 志摩市阿児町鵜方875-24
TEL 0599-44-0567
夏の星空観察会
時 7/18(土) 19:00～21:00
海辺のハイビスカス・ハマボウの観察
時 8/1(土) 10:00～12:00
横輪川の生き物観察会
時 8/29(土) 10:00～12:00
秋に鳴く虫観察会
時 9/12(土) 13:30～15:30
お月見体験
時 9/27(日) 19:00～21:00
料 各回、参加費は大人200円、子供100円
※集合場所はイベントによって異なるため、横山ビジターセンターへお問い合わせください。

海ほおずき
所 志摩市浜島町浜島465-4
TEL 0599-53-1002
わんぱく磯で浅磯・漁業体験
期 営業時間内 (9:30～16:00)
料 小学生以上700円
○潮の干満、潮溜まりのある自然の海に近い人工の磯浅で、素手で獲物を捕ることができる。小さい子どもが楽しめる浅磯もある。予約無しで利用可能。

地元の市

第3回なかまちマーケット
時 6/21(日) 10:00～16:00
所 鳥羽市、鳥羽なかまち(鳥羽3～4丁目)
問 鳥羽大庄屋かどや TEL 0599-25-8686

五ヶ所湾SUN!3!サンデー!ふれあい市
時 毎月第3日曜(6/21、7/19、9/20)
所 南伊勢町町民文化会館駐車場
問 ふれあい市の会(南伊勢町観光協会内)
TEL 0599-66-1717
○南伊勢町の新鮮で安心安全な地場産品を販売する青空市。

伊勢のだいどこ市
時 毎月第4日曜(6/28、7/26、8/23、9/27)
所 伊勢河崎商人館
問 伊勢河崎まちづくり衆(伊勢河崎商人館)
TEL 0596-22-4810
○新鮮な野菜類や干物など台所に関連した品揃えをした市。月替わりでふるまいもあり。

※データは、5/25現在。まつり・イベントは主催者側の都合により、変更になる場合があります。お出かけの際は、あらかじめ電話でご確認ください。

南伊勢学検定テキストブック
『あばばいっ南伊勢』
自然豊かな南伊勢の魅力が満載！
旅のガイドブックとしても最適です。

好評発売中
定価
1,000円+税
A5判 152頁
県内の主要書店
他で販売
発行／南伊勢町商工会 TEL 0599・66・0054　FAX 0599・66・1687
発売／伊勢文化舎　TEL 0596・23・5166　FAX 0596・23・5241

あばばいっ検定（南伊勢学検定）
試験日　平成28年1月23日(土)
● 初級編
対象：中学生以上（町内の方・町外の方を問いません）
意欲ある小学生の受験も可能です。
● 「あばばいっ南伊勢」から出題
● 9月1日（火）から申込受付、有料
お問い合わせ　南伊勢町商工会 検定係
TEL 0599・66・0054　FAX 0599・66・1687

お知らせ

伊勢志摩国立公園指定70周年に向けて
事業実行委員会を発足

平成28年11月に
全国エコツーリズム大会を開催予定

いよいよ、来年の指定70周年に向けて記念事業が動き出しました。

去る5月28日、伊勢志摩国立公園協会を母体にした事業実行委員会の発足式が鳥羽市の鳥羽商工会議所で開かれ、実行委員会の会長に山本教和伊勢志摩国立公園協会長、顧問に鈴木英敬知事らが就任しました。

主な事業としては、今年11月にプレイベント、本番の来年11月には記念式典の他、全国エコツーリズムの全国大会の開催を予定しています。そのほか今年、10月31日、11月1日の2日間、鳥羽港佐田地区で、第7回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in鳥羽が冠イベントとして鳥羽市が開催、他の市町や各企業でも同記念事業が企画されています。

顧問の鈴木英敬知事はあいさつで「来年の70周年はこれまで地元が享受してきた国立公園の恵みや価値をみんなでもう一度見つめ直し、守っていくための大きな節目でもある。また、それを次世代に繋げていかねばならない」と決意を語られました。

会場は行政や観光関係者、企業、NPO団体など100人以上が出席し、スタートに相応しい発足式となりました。

事業実行委員会会長に就任した山本教和氏。

鈴木英敬知事らが出席して、実行委員会の発足式が行われた。

●伊勢志摩国立公園と海女の写真展が開催される
百貨店・津松菱創業60周年記念

4月25～27日の3日間、津松菱6階の催事場で行われた「鳥羽・志摩の物産展」に合わせて「伊勢志摩国立公園風景&海女の写真展」が同時開催されました。中でも入場者の関心を引いたのは、今では見られない白い磯着を着た海女の写真です。来場者は珍しそうに見入っていました。

ぱるく博士の国立公園なんでも講座

大鳴門橋の下で大きな音を響かせて渦を巻く鳴門の渦潮。

② 音風景100選がある公園

Q 7ページのインタビューに「いそぶえ」という言葉が出てくるけど、どんなものなの?

A 漢字では「磯笛」と書くんじゃ。海に潜ってアワビやサザエをとる海女さんが、息継ぎをするために海面に浮かんできた時に出る音なのじゃ。口笛に似た悲しげな響きがして「海女の磯笛」と呼ばれる。その響きが伊勢志摩の海辺の代表的な音として、「残していきたい音の聞こえる環境『日本の音風景100選』」に選ばれておるんじゃ。

Q 音にも「風景」があるんだ。

A 確かに、音は目には見えんがな。しかし地域のシンボルとして残したいと思う音を環境省が公募して100件を選んだのじゃ。その音を聞けば光景が目に浮かんでくるような、そんな音をな。

Q 磯笛のほかに、どんな音が選ばれているの?

A 主なものでは、まず知床国立公園の「オホーツク海の流氷」じゃな。動物の鳴き声では大雪山国立公園の「大雪山旭岳の山の生き物」、釧路湿原国立公園では「鶴居のタンチョウサンクチュアリ」にタンチョウの鳴き声が選ばれ、富士箱根国立公園では「富士山麓・西湖畔の野鳥の森」などが入っておるな。

Q ほかにはどんな音が?

A 三陸復興国立公園では波が岩にぶつかった時の音がすごい「碁石(ごいし)海岸・雷岩」、瀬戸内海国立公園では「鳴門の渦潮」、雲仙天草国立公園ではイルカの群れが言葉を交わす「五和(いつわ)の海のイルカ」 などが指定されておる。今回は鳴門の渦潮の写真を載せたが、見ただけでも音が聞こえてきそうじゃろう。

70周年記念事務局だより

御木本幸吉の志を継いで〝縁期(えご)の松〟復活!

“縁期(えご)の松”は、今から300年ほど昔の『誌陽略誌』に、「男と女が合う約束を交わした場所」と紹介され、出会いの場所のシンボルとして鳥羽の人に親しまれてきた古木です。

鳥羽駅前の佐田浜が埋め立てられる前、沖合50mのところにぽつんと浮かぶ小島に“縁期の松”が枝を広げる姿は、航行する船舶の目印にもなっていました。

それが、昭和期に枯れ、惜しんだ真珠王・御木本幸吉によって植え直されましたが、松くい虫の被害にあい、再び枯れてしまったのはごく最近のことです。年輪の数は、101でした。

そこで去る3月26日、指定70周年を目前に控え、「何とか縁期の松を復活させたい」との鳥羽市民の強い願いが広まる中、三重県造園建設業の社会貢献事業として、また伊勢志摩国立公園指定70周年記念のプレイベントとして“3代目縁期の松”が復活いたしました。

場所は、近鉄鳥羽駅前鳥羽ビジターセンター横の佐田浜西公園です。まだ4mほどの苗木ですが、公園のシンボルとして、また観光客の待ち合わせの目印として、その成長と共に市民や観光客を温かく見守ってくれることでしょう。

真珠王・御木本幸吉によって植え直された2代目の縁期の松。(昭和20年代初め頃)

指定70周年を記念して植樹された3代目の縁期の松。(木田久主一鳥羽市長 ほか)

伊勢志摩国立公園協会事務局長　滋野 峻(たかし)

伊勢志摩国立公園 に関するお問い合せは… 伊勢志摩国立公園協会 TEL 0599-25-2358

伊勢志摩の観光 に関するお問い合せは… 伊勢志摩観光コンベンション機構 TEL 0596-44-0800

購読のご案内

本紙を購読ご希望の方は、お近くの郵便局に設置されています払込取扱票(青字)に、ご住所・お名前・電話番号・号数・部数を明記の上、伊勢文化舎まで発送料をお振込みください。

- **口座番号　00820-2-4239**
- **口座名義　伊勢文化舎**
- **料金　・1~2部　200円**
  ・3~5部　300円

注:6部以上は、料金が異なりますので、お問い合せください。

<お問い合せ・送付先>
〒516-0008　伊勢市船江2-22-25
伊勢文化舎「ぱるく伊勢志摩」係
- **TEL 0596・23・5166**
- **FAX 0596・23・5241**

<お願い>
定期購読ご希望の方は、恐れ入りますが10号(最終号の予定)までをまとめてお申込みいただけると助かります。

配置場所のご案内

〈県内〉
伊勢志摩(3市1町)の主な観光案内所、観光施設、ホテル・旅館、飲食・土産物店、鳥羽ビジターセンター、志摩ビジターセンター、3市1町の観光課窓口、伊勢志摩観光コンベンション機構、頭之宮四方神社、二見興玉神社、近鉄四日市駅・白子駅・津駅・宇治山田駅・鳥羽駅、安濃SA　他

〈県外〉
三重テラス(日本橋)、近鉄東京支社(丸の内)、東京大神宮(飯田橋)、東京コンファレンスセンター(品川・有明)、三重県関西事務所(梅田)、名古屋三交ビル1階桜通りカフェ、近鉄大阪・奈良・京都・名古屋の主要駅、近畿日本ツーリスト各直営店舗　他

伊勢志摩からの便り

今日か明日か――、待ちに待った朗報が今号の印刷直前に飛び込んできました。来年のサミット(主要国首脳会議)の開催地が伊勢志摩(賢島)に決まった、との発表です。安倍首相は「日本の美しい自然、豊かな文化・伝統を世界のリーダーに肌で感じてもらい得る場所にした。また、伊勢神宮は悠久の歴史を紡いできた。神宮の荘厳で凛とした空気を共有したい」とのべています。

今年は“戦後70年”。伊勢志摩国立公園はその翌年(昭和21年)に、13番目の国立公園として誕生し、常に“戦後”とともに歩んできました。敗戦国からいまや世界の主要国になった日本。その意味では、「伊勢志摩サミット」が伊勢志摩国立公園で開催される意義も大きく、日本にとっても、大切な転換のきっかけとなるかもしれません。伊勢志摩からどんなメッセージが発せられるのでしょうか。

発行人／伊勢文化舎代表　中村 賢一

次号は

「秋の号」9月中旬発行予定

特集 秋、神宮林境界の古道を歩く
天の岩戸ー金剛證寺ー宇治岳道ー内宮

あべのべあが、旅に出た。

ボクは、あべのべあ。地上約300mのハルカス300(展望台)を飛び出して、ふらっと近鉄沿線を旅行してきたんだ!みんなに紹介するね。

ハルカス300(展望台)キャラクター あべのべあの気まま旅 http://www.kintetsu.co.jp/abenobea_kimamatabi/ WEBムービー公開中!

近鉄 検索　近鉄公式facebookページ　近鉄

旅客案内テレフォンセンター(8時~21時)年中無休　大阪(06)6771-3105 / 名古屋(052)561-1604